

家庭教育学級だより 第 3 回家庭教育学級実施報告

「紙管と布を使った、避難所でのプライバシー空間づくり」

平成 28 年 10 月 8 日（土）NGO ボランタリー・アーキテツ・ネットワーク（VAN）を講師としてお招きし、災害時の避難所生活を考えるディスカッションと、紙と布で作る避難所簡易間仕切りシステムの組み立て体験をいたしました。

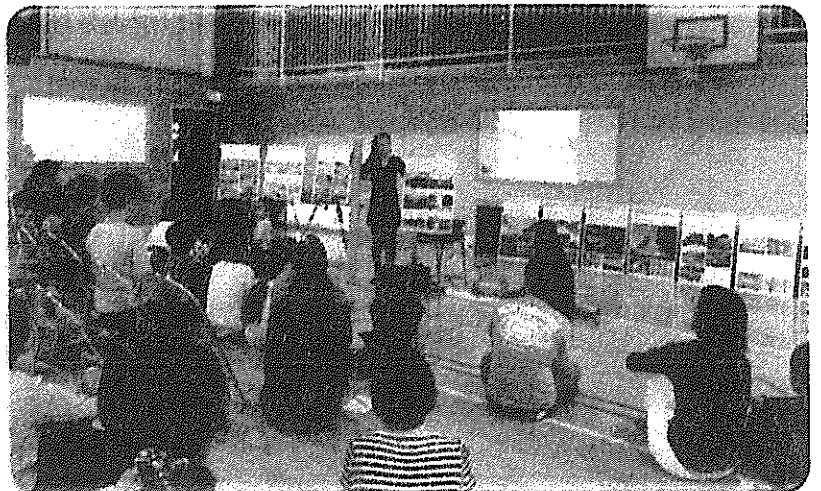
NGO VAN は、世田谷区松原に事務所を構える坂茂建築設計の坂氏が設立した団体で、主に災害後の被災者生活を支援する活動をされています。「紙の建築 行動する - 建築家は社会のために何ができるか -」（岩波書店）の著書を出されている坂氏は、世界を舞台に活躍され、国際的な賞も数々受賞されている著名な建築家です。坂氏とそのスタッフの「仮設住宅の質を上げたい」という思いが、これまで阪神、トルコ、インド、東北、熊本などで何万人もの被災者の生活の支えとなった実績をお持ちです。

「もしかしたら明日！ここで！避難所生活をしなければならないかもしれない！」下北沢小学校体育館で、日頃考えておかなければならない避難生活について親子で思いを巡らすきっかけをいただきました。

ディスカッション: 避難所生活で困ることって何だと思う？

参加者から出た意見（似た意見はまとめています）

- 音、明るい／暗い、ニオイ、寒い／暑い、トイレ、ゴミ、感染症
- 生活時間が異なる人と一緒に生活するストレス
- 洗濯ができない
- 床が硬くて痛い／眠れない
- 食べ物が足りなくなるのでは
- 食事、睡眠、着替え、生活全てを小さなスペースで行うのはつらい
- 会話をするだけで気を遣う
- 話したいことを話せない
- プライベートが守られずストレスが増えそう
- のぞき見が心配
- 授乳や着替えをどうするのか ⇒ 着替えは布団の中でするケースが多いそうです
- 子どもの泣き声で迷惑をかけそう
- 地域の人を入れるのか
⇒ 自治体によって決まりが異なり、
- 厳密に住所で仕切られることもあり、
- 仲良しのお隣さんと別々の避難所を
- 指定されるケースもあるそうです。
- 子どもたちの遊び場
- 防犯、安全
- ペット
- 充電ができない
- インターネットが使えない
- テレビを観られない、ゲームができない



写真と映像を交えてお話いただきました

体験: 紙管(しかん)と布でプライベート空間を作る

避難所間仕切りシステムは、他にもいろいろありますが、この紙管と布のシステムはエコで効果が高い仕組みです。

◇工具なしで組み立て簡単

組み立てはいたって簡単。柱の穴に横パイプを通し、ジョイントでつなげていくだけです。PTAのお母さん、またお子さんにもできました。

◇材料が軽い、不要時に燃やせる

今回はワーク用の150cmでしたが、実際は200cmの紙管を使います。紙管は、サランラップ芯が大きくなったもので、女性でも子どもでも運べる重さです。

◇在庫がいない

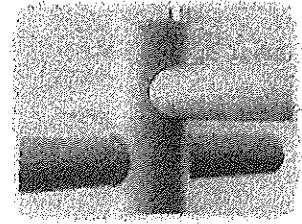
紙管は工業製品で、日本全国に工場があります。注文から1週間もあれば一定量の作成が可能で、災害が起きてから発注しても間に合うため、在庫を用意しておく必要がありません。

◇風も通せる開け閉め簡単な間仕切り

避難所を管理する自治体にとっては、昼間カーテンを開けておいてもらうことで、中の様子がわかり、「調子が悪い人がいないか」また「お酒ばかり飲んでいる人がいないか」などの確認がしやすいそうです。

◆参加者の声(抜粋)

- 今後、高確率で起こりうる災害に備えて考えるよいきっかけになりました。
- 実際に作ってみて、子どもたちが喜々としてやりたがるような作業、苦でないのがよいですね。
- 平面→立体に変化することで、これだけ気持ちに変化が生まれると驚きました。
- 思っていた以上に興味深く、よい経験ができました。参加できてラッキーでした。
- 紙と布でここまでできることは、驚きです。
- 貴重なお話を聞き、少し心構えができました。
- 実際に運用されていて、素早い設置フローがあることに感心しました。



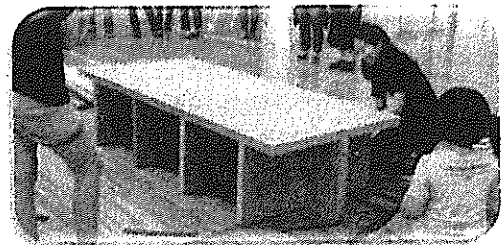
紙管を穴に通すだけ



女性でも作れる、軽い! 簡単!



布をクリップで止めたカーテン式間仕切り



収納付き簡易ベッド お父さんでも大丈夫

みなさんは、どのような場合に避難しなければならないかご存じですか?

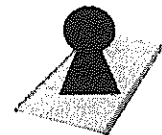
世田谷区のHPによると、

- 区や 防災関係機関の避難勧告や指示があったとき
- 避難の指示がなくても防災区民組織等が避難の必要があると判断したとき
- 周辺地域に火災が発生し、延焼の危険があるとき

この中でも特に、下北沢小学校の学区は住宅密集による火災延焼の危険が指摘されています。

世田谷区の避難所スペースは、ひとり1畳。できた間仕切りシステムの最小コマに2人です、参加者は、「うちは4人だから2コマ、この広さかあ」と、数か月にも及ぶかもしれない生活をご家族で想像する姿も見られました。

★世田谷区はNGO VANと本システムの提供の協定を結んでいます。災害が起きた際には、下北沢小学校の体育館にもこのシステムが組み込まれることとなります。



「見たい! 作ってみたい!」という方は、sktkatekyo@gmail.com までご連絡ください♪